

わが社の SDGs

Sustainable Development Goals

持続可能な開発目標

(有)アイディーワーク

(出雲市大津町)

余った資材の販売通して廃棄ロス削減

不動産業やリフォーム、リノベーションを手掛ける(有)アイディーワーク(出雲市大津町、太田清隆社長)は、施工後に余った資材や処分予定の建材を希望者にワンコインで提供する機会を設けることで、廃棄ロスの削減に取り組んでいる。

内装工事で使ったタイルや木材、壁紙などの余りは、サイズがばらばらだったり、数が中途半端だったりして別の作業に使えず、これまでは廃棄するしかなかった。状態が良く、まだ十分に活用できることから「捨てるのはもったいない」と声が上がリ、同社の宅地建物取引士・田中美由紀さん(35)の発案で希望者に提供することを決めた。

2018年から開く地域イベント「アイディーマルシェ」内のフリーマーケットで販売するほか、写真



余った資材を販売するイベント「アイディーエコマ」で品定めする来場者。2021年11月、出雲市大津町、アイディーワーク



11 都市



12 生産・消費

共有アプリ「インスタグラム」で余分な資材を順次告知し、問い合わせを受け付けている。手軽に買えるよう価格設定は基本500円とし、小物や壁紙は無料で配布しているものもある。

昨年11月のマルシェでは、会社としてSDGsを掲げようと取り組みを「アイディーエコマ」と銘打ち、約100点を販売。木材のカット法なども指導し、約130人の来場者でにぎわった。売り上げは全額寄付し、地域貢献に役立てる。田中さんは「廃棄が減り、お客さんにも喜んでもらえて良いことづくめ。こうした取り組みが広がってほしい」と話し、太田社長(51)は「できることから取り組み、SDGsの活動の幅を広げていきたい」と意気込む。

(金津智也)